

芸者と顔黒との比較分析

ジョンニ

0 2 4 2 0 4 8



マラナタキリスト教大学

文学部

日本文学科

バンドン

2 0 0 9

芸者と顔黒との比較分析^{ひかくぶんせき}

序論^{じよろん}

日本の伝統的な文化の一つでよく知られているは芸者である。芸者は日本の女性美容の象徴^{しょうちょう}として見なされている。顔と首を白くさせ、日常^{にちじょう}着物を着る

ことで、芸者は日本の女性の伝統的な特徴^{とくちょう}を持つものになっている。

しかし、時代が変わるにしたがって、芸者に象徴される日本の女性の美容象^{びようぞう}も変化するのである。現在、原宿スタイルというものがある。これは、東京、原宿において、若者たちが特殊^{とくしゅ}なもの着て着飾^{きかざ}るスタイルである。また、これは自分たちの自由な自己表現をしようとするものである。原宿スタイルの他に、1990年から2000年かけて、若者、特に高校の女性たちの間二現象的な流行り形で流行した物がある。これは、顔黒というものである。顔黒^{しゅうだん}の集団に入る者は顔全体、あるいは一部分を意図的に真黒にし、髪を髪あるいは赤茶けにものに染めるのである。また、彼女たちは目ぶたを黒く、あるいは白く塗りつぶし、偽せまゆ付け、底の高い靴をはき、派手な色の服を着るにである。

芸者によって象徴される伝統的な美容と顔黒のよって表現される特殊な着飾り形には大きな違いがある。本論文は、芸者と顔黒との髪形、化粧の仕方、服を着方など話し方の違い分析するものである。分析するにあつては、比較記述文法を使うことにする。

本論

文字通りに見て、芸者は、芸をする者、つまり日本の伝統的な芸をするものである。この芸者は、400年前に現われに女性の職業の一種である。昔、芸者は、花魁と同儀だと思われたが、芸者は花魁ではなく、日本の女性の美容など力能さを象徴しているのである。女性にとって、芸者は伝統的な女性らしさの象徴だったのである。その女性らしさは、芸者の化粧の仕方、つまり顔や首を白くすることで現割れるのである。また飾りもののたくさんある着物にも女性らしさが見られるのである。芸者が日本の伝統的な美容を象徴するのは四つ重要な要素がある。それらは、髪形、着物の着方、化粧の仕方、そして生活の仕方である。

一つ目、芸者は自分の好きなように形付けることができるように髪を長くするのである。芸者の髪^めの結い方複雑なので結うのに時間が長くかかるのである。

二つ目、芸者が身に付けるものはもちろん着物である。着物は日本の伝統的な服装である。西洋人によれば、ある女性の美しさは、その人が着物を着ているときに見られるのであるという。したがって、芸者にとって着物は、貴重なものである。一人の芸者が24着^{ちやく}の着物を持つことも稀ではないのである。着物を着るのも難しいものであるため、それを着るときは専門の人の手助けが必要である。そして芸者の着る着物の色は、普通四季ヲ表す色である。また、着物は、良質な絹で作られるので値段が高いのは言うまでもないのである。

三つ目、芸者の化粧は普通の化粧の仕方と違うのである。化粧した芸者野顔は面のように見えるのである。このような化粧をしたのは目的がないわけではないのである、顔をそのように白く塗りつぶしたのは、塗っていない他の部分をひき立たせるためである。つまり、他の部分を官能的なものにするためである。

四つ目、芸者は、生活を営^{いとな}むにおいて常にしつじよを守っているのである。これが日本の女性の象徴として見なされているのである。

一方、顔黒^{いっぽう}というのは、漢字から見ると、顔と黒とからなっているが、これは、顔を黒くするという意味である。彼女たちはたぶん黒人^{こくじん}の女性が

の肌、あるいは、カリフォルニアのビーチにいる女性の^{ようやき}陽焼けした肌にあごられるいるのであろう。肌を黒くするだけでなく、^{こんじき}金色あるいはご茶色に染めた髪や^{はで}派手な色の^{ふくそう}服装そして、20 cmもある底の高い靴はくもの特徴である。この傾向は、白い肌、黒い髪という一般的美の象徴に対する若者の反発のようである。顔黒の金色、茶色、白に染めた髪、またその型が芸者に代表されるそれものはまったく異なっているのである。しかし、髪においては芸者と顔黒に^{きょうつうてん}共通点がある。それは髪を長くしているということである。芸者も顔黒も、髪を両者特徴の一つにしているようである。

服装の着方において、顔黒は勝手気ままに、しきたりを守らず着るが、芸者は常に伝統的な着方を守っている。服装において両者の共通点は^{こうか}高価であることである。芸者の着る着物は^{りょうしつ}良質な絹で出来ており、顔黒の着る服装は、ブランドものである。

^{こうか}高価なもの着るあるいは、身にはけることは、女性のおこがれである。それらを身にはけることにより自信がわくのである。顔黒は黒、あまり衛生的ではないという思われ、一方芸者は日本の伝統的な美を表す白と同儀である。しかし両者がユニークであることは、言うまでもない。

一方、話し方においては、顔黒は常に黄色い声を出して話す、芸者は、敬語を使い、穏かに話すのである。芸者と違って顔黒は^{いやげん}卑言も使うのである。しかし、それぞれ独特な言葉を持っているということは、両者の共通点である。上記の比較の他、XUEXIN LIU が作った調査など^{ひっしゃ}筆者が作ったアンケート調査の結果、一般に日本人は顔黒の生き方に対し友対し、芸者の生き方に質問するのである。顔黒は1990年から2000年にかけて流行していたが、現在はもうすたれているのである。

^{けつろん} 結論

芸者と顔黒とを比較分析してみた結果つぎの結論を引き出すことができる。今にいたっても芸者は日本の伝統的な美であると見なされ、一方、顔黒は、1990年から2000年にかけて流行っていたが一時、美の象徴になっていたのである。芸者は^{かち}文化価値の高いものであり、顔黒は文化価値の低いものである。

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR	i
DAFTAR ISI	iv
BAB I PENDAHULUAN	
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Pembatasan Masalah.....	4
1.3 Tujuan Penelitian.....	5
1.4 Metodologi Penelitian.....	5
1.5 Organisasi Penulisan.....	10
BAB II KONSEP KECANTIKAN TRADISIONAL (GEISHA)	11
2.1 Gaya Rambut <i>Geisha</i>	14
2.2 Cara Berpakaian <i>Geisha</i>	16
2.3 <i>Make-up Geisha</i>	19
2.4 Gaya Hidup <i>Geisha</i>	22
BAB III GANGURO DENGAN KONSEP KECANTIKAN TRADISIONAL (GEISHA)	25
3.1 <i>Ganguro</i>	25
3.2 Pandangan Terhadap <i>Ganguro</i>	29
3.3 Gaya Rambut <i>Ganguro</i>	35
3.4 Cara Berpakaian <i>Ganguro</i>	41
3.5 <i>Make-up Ganguro</i>	46

3.6 Gaya Hidup <i>Ganguro</i>	52
BAB IV KESIMPULAN	58
DAFTAR PUSTAKA	
LAMPIRAN	
SINOPSIS	
RIWAYAT HIDUP PENULIS	